

■ 4 - そう思う ■ 3 - どちらかといえばそう思う ■ 2 - どちらかといえばそう思わない ■ 1 - そう思わない

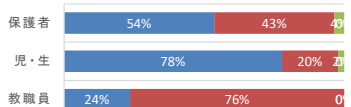
人権同和教育の充実

明るく楽しい学級作り

児童会・生徒会活動の充実

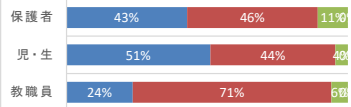
1

子供は、自分の大切さとともに他人の大切さを認めることができる。



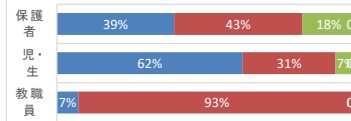
2

子供は、自分の考えをもち、発信することができる。



3

児童会・生徒会は、主体的に活動している。



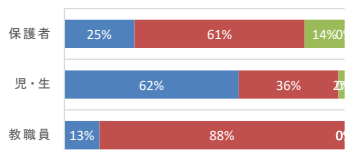
①児童生徒、保護者、教職員ともに肯定的に感じている。授業や特別活動、日常生活の中で意図的に自他共に大切にすることを育てる取組を継続して進めていく必要がある。
②③児童生徒、保護者は同じように感じているが、教職員と意識の差が見られる。それに対して、児童会や生徒会は主体的に活動していると感じていることから、授業の中での表現力を高めていくために、授業改善を進めていく必要がある。

道徳教育の充実・心の教育

いじめ・不登校の防止

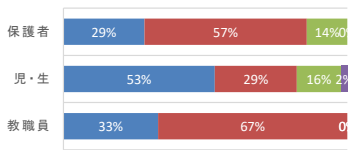
4

子供は、お互いに意見を出し合い、話し合いをすることができる。



5

子供は、自分が困っているときに気軽に相談したり、困っている友達に進んで声をかけたりしている。

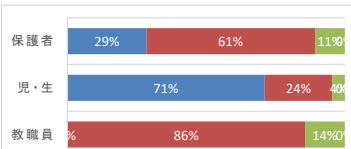


⑤教職員が児童生徒の姿を見て、子ども同士の相談体制はできていると感じている。児童生徒によっては、できていないと感じているが、保護者は子ども同士で相談している姿を見かけることが少ないと感じている。このことから、教職員の児童生徒への実態把握をさらに高めながら、いじめ・不登校の未然防止、早期解決を図るようになる。また、教職員だけでなく、児童生徒や保護者への発信及び児童生徒が相談しやすい体制の構築を今後行っていく。

確かな学力の育成

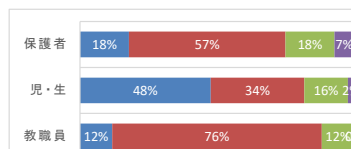
6

子供は、やる気を持って授業を受けている。



7

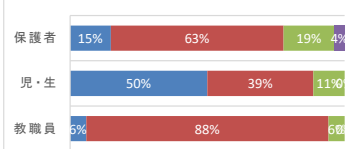
子供は、分からないことがあれば、人に聞いたり自分で調べたりして、解決しようと粘り強く努力している。



⑥⑦⑧意欲的に学習に参加している児童生徒が多く、教職員も同じように捉えている。しかし、保護者は、児童生徒、教職員との意識の差があることから、家庭での学習の状況に要因があると考えられる。家庭学習の取組の工夫を行うこと、また、授業の様子等をあらゆる機会を通じて公開しながら、児童生徒の状況を把握していただく必要がある。全国学力学習状況調査をはじめ、多くのテストで個人差であったり、基礎基本の定着を確実に進めていくための授業改善を職員総体ですすめて、「わかる授業」「みんなで話し合い解決していく授業」「一人一人の子どもの主役となる授業」を作っていく。また、児童生徒同士の教えあいや教職員への相談しやすい雰囲気や学級経営から行っていくことも必要である。

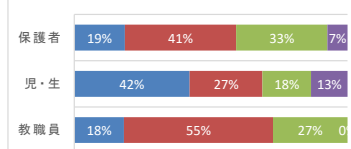
8

子供は、自分の考えをもち、意見交流しながら考えを深めることができる。



9

子供は、目標とする冊数をめざして進んで本を読んでいる。

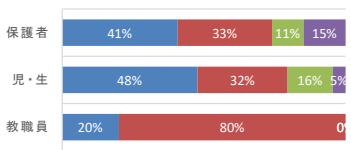


⑨本校の児童生徒は、7割程度がハッピーブック運動を達成している。本を意欲的に読む機会を増やすために、担当が丁寧な計画のもと、図書委員会の取組などでの啓発を行っている。改善として、読む時間の確保や家庭での読書への啓発等が考えられるので、それに向けた取組を継続する。

健やかな体の育成

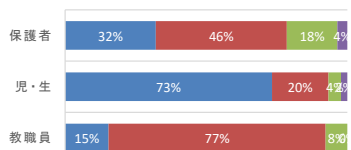
10

子供は、自分の生活習慣や体力の状況を知り、改善しようと努力している。



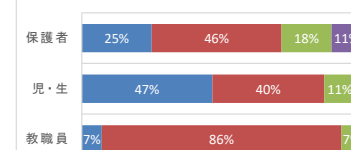
11

子供は、むし歯や自分の健康について、予防や治療を心がけている。



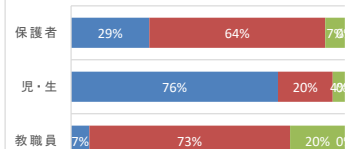
12

子供は、自分自身の食生活について関心がある。



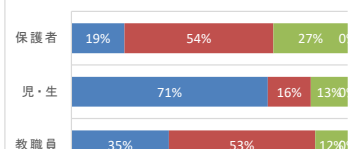
13

子供は、危険を察知し、事故やケガを回避しようと心がけている。



14

子供は、美しい環境づくりに自ら取り組んでいる。



⑩⑪⑫生活習慣、むし歯の予防、食生活について、保護者の意識と児童生徒や教職員との差がある。体力については、学校での取組は充実しているが、家庭での体力を高める取組ができていないと感じている保護者が多いようである。いずみん大作戦等で家庭の啓発を行っているので、引き続き、学校と家庭で連携し、意識の改善の継続を行う必要がある。
⑬安全面については、さらに児童生徒が自助できるようにあらゆる場面で指導を継続する。
⑭環境面については、保護者の回答が低いことから、学校での状況を共通理解し、ともに児童生徒への声かけを行う必要がある。

令和5年度 学校評価アンケート(上期)結果

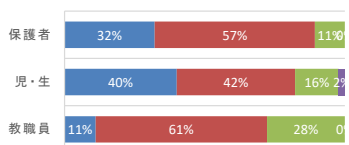
学校名 泉小中学校

■ 4-そう思う ■ 3-どちらかといえばそう思う ■ 2-どちらかといえばそう思わない ■ 1-そう思わない

地域とともにある学校づくり

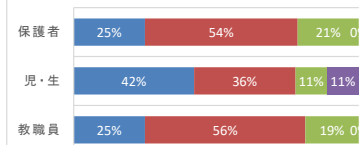
15

子供は、地域の方々に感謝の心をもってあいさつが
できている。



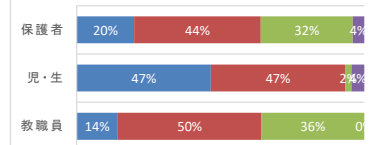
16

子供は、体験活動や交流活動に積極的に参加してい
る。



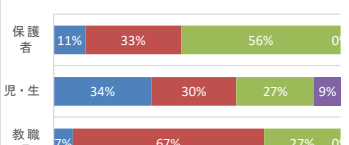
17

子供はふるさとの伝統文化に関心を持っている。



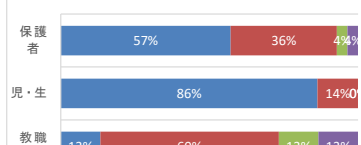
18

子供は、ふるさと泉のよさについて話したり考えたり
している。



19

子供は、多くの人に見守られて安全に登校できている。

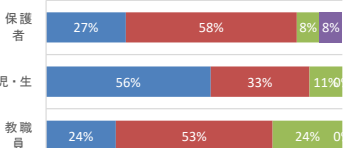


⑯児童生徒、保護者の多くが地域の方への挨拶ができていると感じている。しかし、教職員の意識としては、さらに挨拶の励行を行っていく必要性を感じている。朝のあいさつ運動も児童生徒主体で行うことができ、児童生徒の満足感や保護者からも認めていただいているので、今後も継続していきたい。
⑰児童生徒、保護者とも体験学習や交流活動へ意欲的に参加されている。今後は、活動の整理を行いながら、より質的な向上を目指していく。
⑱⑲泉町のよさや伝統芸能について関心をもっている児童生徒は9割いる。反面、教職員や保護者からは、学年によって差がある。全学年で体験活動や日常での活動等でより泉のよさを感じることにつながるような計画の整備や取組を行う必要がある。
⑳児童生徒、保護者は安全な登下校ができていると感じている。今後は保護者や地域の協力を願いたい。

小中一貫教育の充実

20

学校は、義務教育9年間を見据えた指導を行っている。

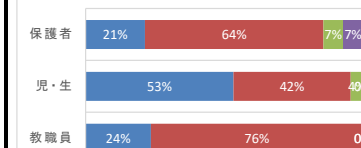


㉑児童生徒は多くの先生方が授業も含めて関わってくれるよさを感じている。小中一貫教育校の強みを生かして、児童生徒を小中学校職員全員で見とめることを今後も継続していく。また、学習指導などきめ細やかな学校の体制を引き続き行う。

家庭・地域の連携について

21

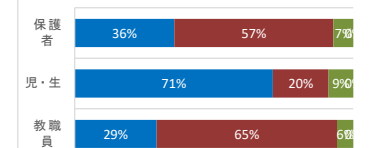
学校は、小学校・中学校の発達段階を大切にした指導を行っている。



㉒児童生徒、保護者ともに、8～9割以上が発達段階に応じた効果的な指導が行われていると感じている。特に保護者は少人数の効果的な指導を感じている反面、発達段階に応じた指導をより行ってほしいと感じている。今後は校内での研修等を工夫し、学校総体で指導力を向上させていく。

22

家庭は、泉小中学校で学ぶことに満足している。



保護者からのご意見等

○人数が少ない中、難しい部分も多々あるとは思いますが、学校に行くことを楽しみにしているので、ありがとうございます！（小3）

○子供たちが興味を持てる授業をされていて、勉強するのが楽しいようです。学校の授業で力がついているように感じます。あいさつ面でも学校での指導もしっかりあり、大きな声で気持ちよく、学校以外でも聞くことができうれしい限りです。個性をしっかりと伸ばしてもらっているととても感じます。（小4）

○生徒一人一人をしっかりと見てくださって本当に毎日感謝しております。（中2）

○自分に自信がなく、恥ずかしがりの性格なので積極的に自らすすんで何事にも取り組んでもらいたい旨を先生に伝えていました。その心配をよくみていただいて発表する場を与えてくれたり顔見知りのコミュニティの中でできるだけ発言する場をつくってもらえて感謝しています。自主学習はやっているのですが、なかなか理解できず、できている子の足を引っ張っていないか心配です。（中2）

○中3の学年は小学生からまとまりがありました。また、更に先生があたたかく見守ってくれ結束力が強くなっていると感じます。家では、なかなか我慢して親には言っていないことも先生が察してくれて子どもの様子を電話で知らせてくれることもあり安心感と感謝の気持ちです。面談の時に学校の先生をどんどん利用して、分からないことなどいつもで聞いてくださいといわれ、心強かったです。（中3）